



きつねのごん太と

たぬきのぽん太



それに

うさぎのような

ひよこのひい子



赤いきつねと緑のたぬきと チキンラーメンと、

「赤いきつね」と「緑のたぬき」、
どっちが好きかだって、

う～ん

そんなの決まってるやん。

赤いきつねかなあ、

きつねはうどんで、たぬきはそばでしょ、
だったら、うどんが…、

いや、

やっぱり、チキンラーメンかな

だって、

きつねやたぬきより、ひよこの方がかわいいもん。



この絵本は、「月のうさぎ」のパロディです。

「月のうさぎ」のお話しは、

究極の自己犠牲の物語りです。

読んで見ると、すごく悲しい気持ちになります。

でも、なんとなく腑におちないことないですか？

この物語を読んだ子供たちが、どうとらえるか？

難しい内容だと思いませんか？

自己犠牲より、生きて役に立つことの方が尊いのです。

わが身を食べさせるために、侘びながら炎に飛込む...

そんなことが、

日本人には、国のために死んでいった神風特攻隊のような

自己犠牲とがダブるのではないのでしょうか？

子供たちには、自己犠牲ではない創像力を身につけてほしいのです。

豊かな想像力を身につけてほしいと思い、絵本にしてみました。

お子さんと一緒に、この話しについて考えてもらえれば幸いです。



きつねのごん太と

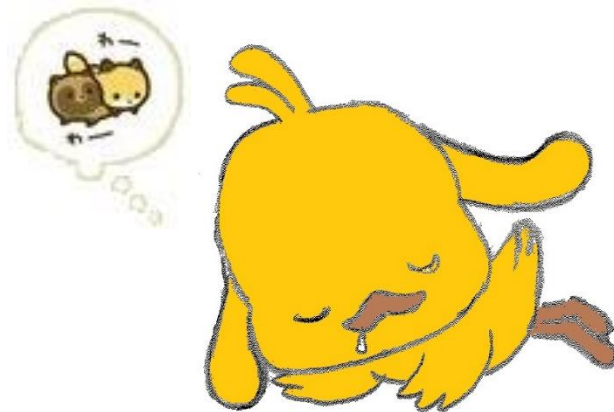
たぬきのぽん太

それに、

うさぎのようなひよこのひい子

むかし、むかし
ある森の中で、
たぬきのぽん太と
きつねのゴン太と
ひよこのひい子が
なかよく、くらしていました。

3びきは、とてもなかよしです。



ある日、
ぽん太が人間に生まれかわったゆめを見ました。
困っている人を助けると
人間に生まれかわれるんだよ。
神さまからそういわれたんだ。

だから、
困っている人がいたら、
みんなで助けてあげようね。
そうすれば、人間に生まれかわれるよ。



ねえ、
ひい子は、もしも人間に生まれかわったら
どんな人間になりたいの？

ひい子は、いいました。
わたしは、「困ったときに助けてもらえる」
そんな人間になりたいわ。
それに、わたしはみんなから好かれたいわ。

だって、困ったときに助けてもらえないと
いつまでも不幸じゃない。

神さまは、
「まわりの人々の幸せを願える人は、
自分も幸せになれる。」 っていってたよ。

まわりの人にも幸せに
なってもらいたいわ。
ひい子は、そういいました。



そんなある日、
ひいこが、道でたおれている
おじいさんを見つけました。

おじいさん、だいじょうぶ？
この水をのんで
元気をだしてくださいね。



おじいさんは、小さな声で、
「うう～、おなかがすいて動けないのだよ。」
といました。

おじいさん、しっかりして、

ひい子は、

いそいで、ぽん太とごん太のところに行きました。

ぽん太くん、ごん太くん、

おじいさんが、

おなかがすいて動けないんだよ。



なにか食べるものをさがしてあげないと。

それは、たいへんだ。
困っている人は、助けてあげないとね。
そうやって、
ぽん太とごん太とひい子の3びきは、
おじいさんのもとにかけつけました。

ぽん太がいました。
このおじいさん、
ひょっとして、神さまかもしれないよ。
だって、ゆめで見たのと同じだもん。



おじいさんのために、
みんなで食べものをとりに行こう。

そうってぽん太は、
山に行って木の实やくだものをとってきました。

これだけあれば、
おじいさんも
きっとよろこんでくれるだろう。



ごん太は、
川に行って、さかなをつかまえました。



おじいさんも
おいしいさかなを食べたら、
きっと元気になるだろう。

ひい子は、
はらっぱに行って、
いつも食べてる草をとってきました。

おじいさんのために、
がんばらないと...



3びきのおかげで、
おじいさんは、元気になりました。

でも、おなかいっぱいになったおじいさんは、
次の日も、その次の日も、帰ろうとしません。

ぽん太もごん太もひい子も
食べものをとってくるのに、つかれました。

おじいさん
元気になったんだから、もう帰ってくれないかなあ。

でも、やさしいひい子は、
おじいさんに、親切におもてなしをすることで、
人間に生まれかわれるとしんじて、
一生けんめいに、おじいさんのおせわをしました。

それを知ったおじいさんは、
3びきに、
もっと食べものをもってこないと
人間に生まれかわることは
できないよ。って、
うそをつきました。



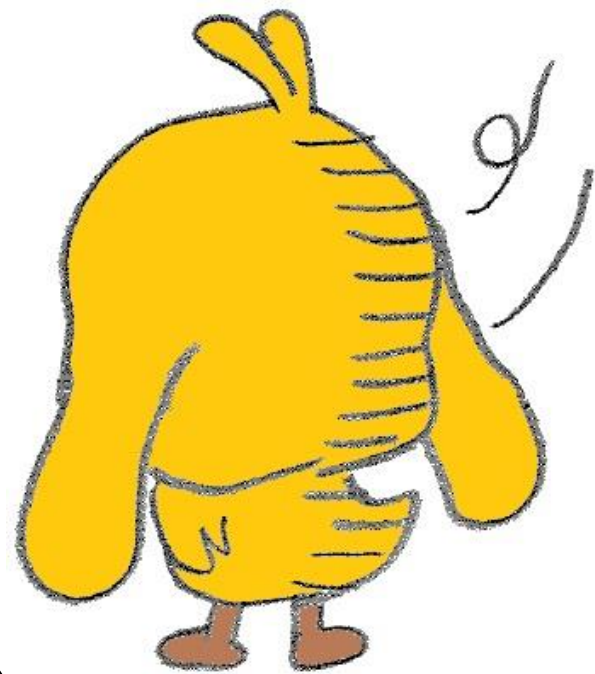
そして、ひい子には、
こんな食べられない草ばかりとってきて
どういうつもりなんだい。
もっと、食べられるものをもってきたらどうなんだ。
と、もんくをいいました。

ぽん太とごん太は、
そんなおじいさんことが、
だんだんときらいになりました。

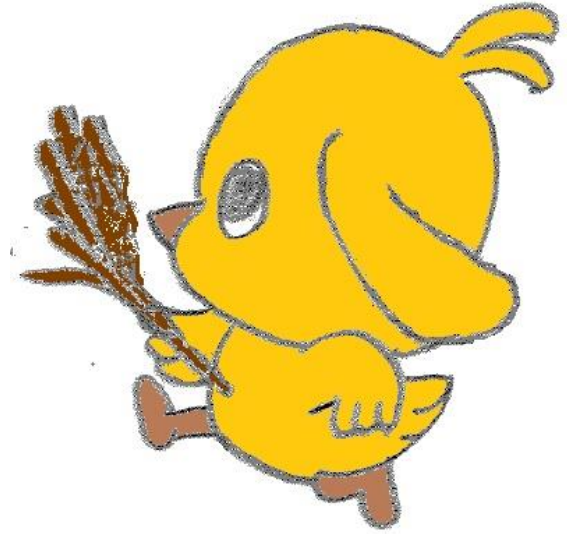


でも、ひい子はちがいます。
おじいさんに、
「もっと食べられるものをとってこい」といわれ、
かなしくなりましたが、
つぎの日もひい子は、
おじいさんのために、
食べものさがしに出かけました。

でも、食べものをとってくることは
できませんでした。
また、おじいさんにおこられてしまうわ。



なやんだひい子は、
つぎの日、はらっぱでなく、山に行き、
かれ木をひろいあつめました。
そして、かれ木をつみあげて、
火をつけました。



ひい子は、おじいさんに、
「食べものをとってこれなかったので、
せめてわたしを食べてね。」
そういって、
火の中にとびこんでしまいました。



ひい子は、死んでしまいました。

どうして、死んだんだよお～
ぽん太とごん太は、
ひい子が死んですごく悲しみました。
そしてもう、
人間に生まれかわれなくてもいいや。
そうやって、おじいさんのために、
食べものをとってこなくなりました。



おじいさんは、しかたなく、家を出ていきました。

ごん太はいいいました。

ぽん太くん。

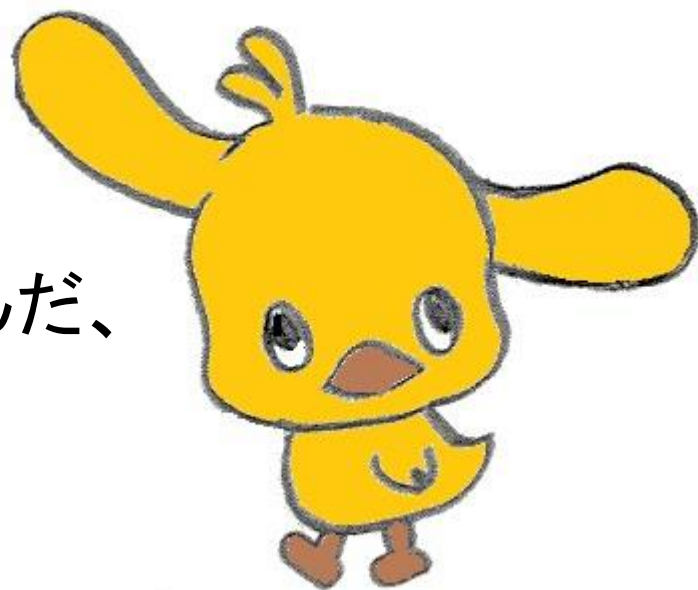
人間はみんないい人だと思っていたけど、
自分かってな人もいるんだね。

ぽん太もいいいました。

そうだね、せっかく人間に生まれてきたのに...、
でも、あのおじいさんは、
つぎはもう、
人間に生まれかわれないんじゃないのかな。

ねえ、神さま、
ひい子は、人間に生まれかわれるの？
ひい子は、人間に生まれかわったら
「困ったときに助けてもらえるような人間になりたい」
って、いっていたから……、

だから、ひい子みたいな人が
困っていたら、親切にしてあげるんだ、
でも、あのおじいさんみたいな
自分かってな人間には、
もう、親切にしたくないなあ。



そうって、ぽん太とごん太は、
わるい人間は、ダメしてやろうと思いました。

でも、ぽん太とごん太は、
いい人間か？、わるい人間か？
見分けることが、できませんでした。

そこで、
もう、人間に生まれかわれなくてもいいから、
いい人間とわるい人間をみわける方法をおしえて、
そう神さまに、おねがいしました。

そして、ぽん太とごん太は、
いっしょけんめいに、人をだますことを覚えました。



ひい子が死んでから数年がたちました。

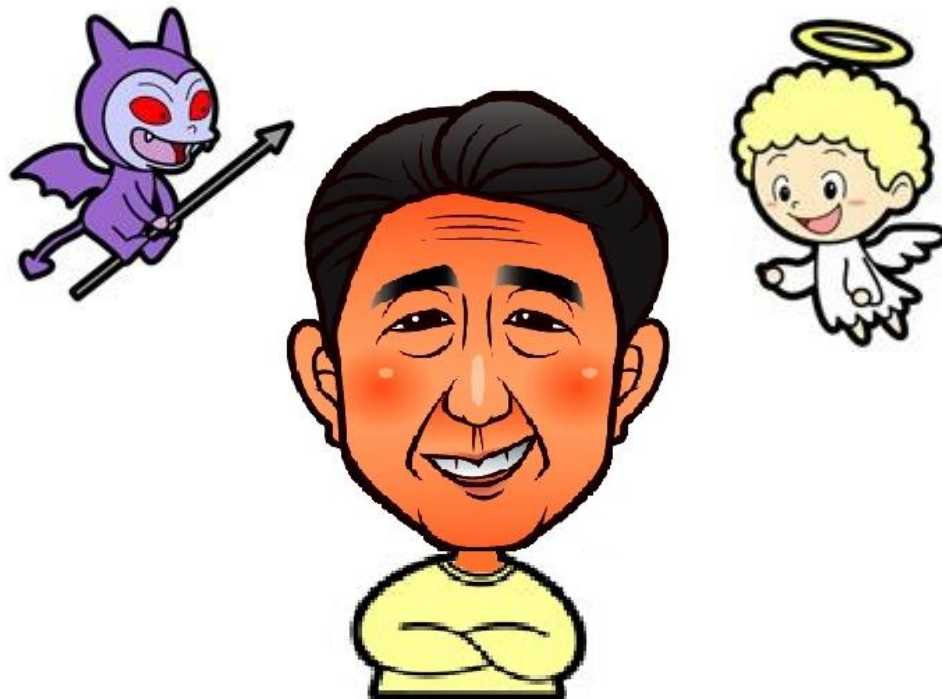
ぽん太とごん太も大きくなり、
ばけるのもうまくなりました。
もう、人をだますことだってできます。

そんなある日、
道にまよった旅人に出会いました。

旅人は、ここ数日なにも食べてません。
なにか、食べものをもらえませんか？



ぽん太とごん太は、
この旅人が、いい人間か？、わるい人間か？
すぐにわかりました。



あなたは、
この旅人が、いい人だと思いますか？
それとも、わるい人だと思いますか？



あなたは、
この旅人に、親切にしてあげられますか？

きっと、ひい子だったら、
この旅人が、悪い人であっても親切にするでしょう。

その後、
ひい子は、人間に生まれかわったのか？だって、

ひい子は、
マザーテレサのような、
やさしい女の子に生まれかわったよ。



おしまい

